

おお ちよう
町 谷 大

夏祭 「お峯デンソソ」

畝傍山の西ふもとに広がる大谷町には、畝傍山を取り巻く慈明寺・山本・四条・大久保・畝傍・吉田などの各町が、それぞれ氏神として祭る「畝火山口神社」が鎮座します。毎年七月二八日、二九日の両日に行われる同神社の夏祭りは、俗に「お峯のデンソソ」と呼ばれる近隣一帯のお祭りです。中心行事が「お峯山の水取り」という神水汲みの神事で、むかしから二八日の早朝に神官が二人の供を従え行列を組んで壺坂峠を越え、はるばる大淀町の吉野川へ水汲みに出掛けたと伝えられます。

一方、これと逆に大阪・住吉神社から毎年（二回）、この境内へ土を取りに来る「住吉の土取り」神事が古くから続いています。むかし乗馬行列でやってきて、持ち帰った土で住吉神社の神具を整えたといわれます。詳しいことは分かりませんが両神社の間で、なにか古い行き来があったのでしょうか。

江戸時代から明治時代まで「大谷村」と呼ばれました。明治一五年ごろは、戸数が一八戸・人口が一三七人の静かな農村でした。明治二三年に真菅村の大字となり昭和三年に「橿原市大谷町」となります。平成一二年現在、戸数が六八戸・人口が二一〇人です。